

令和 2 年 6 月 9 日現在

機関番号：32103

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03142

研究課題名（和文）「近代」移行期の東アジアにおける知識人の人的ネットワーク形成に関する調査と研究

研究課題名（英文）A Fundamental Research on the Human Network of Intellectuals in East Asia from the Transitional Stage to Modern Times

研究代表者

崔 蘭英 (Cui, Lanying)

常磐大学・人間科学部・准教授

研究者番号：80396803

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,300,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究では「西洋の衝撃」以後の危機意識の下、東アジア三国（日本、朝鮮、清）の知識人たちが、共通の教養、コミュニケーションの手段であった漢字、漢文を使って構築した人的ネットワークの具体的様相と、それが当時、及びその後の東アジアの国際関係に実際に及ぼした影響について明らかにするために、まず基礎的な事実関係を把握することを目指した。そこで、国内外において詩文、書簡類を収集し、分析・検討を加えて、興亜会や清国公使館および民間人の交流の場を通して形成される三国の知識人たちの人的ネットワークの実態を明らかにした。さらに、漢詩・漢文が当時の東アジア知識人たちの思想を共有する手段となりえたことを確認した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

従来の東アジアにおける「近代」の政治史、外交史の研究は、主に外交文書類によってなされてきた。そのため、いわゆる「同文同種」と呼ばれる所以の共通の文化的基盤である漢字、漢文によって形成された人的ネットワークが政治、外交や国際関係に及ぼした影響については見落とされてきた。

本研究では、この人的ネットワークがどこで、如何なる人々の間で、何を目的に、どのようにして形成されたのかということをも加えて具体的に明らかにした。これによって今後、19世紀後半以降の歴史研究のみならず、文学研究の領域にも新たな視点をもたらすものと期待できる。

研究成果の概要（英文）：This study did a fundamental research on the human network of intellectuals from the three countries of East Asia (Japan, Korea, and China Qing) from the transitional stage to "Modern Times". Under the awareness of the crisis after the "Western Impact", the intellectuals used Kanji and Chinese poetry which were the common means of communication during that time to construct social human networks.

In this study, we first concretely clarified the aspects of this human network formed around the Koa-Kai and the Qing Legation, by demonstrating letters, poetry and the record of communicate in writing. Further more, we confirmed that Chinese poetry and Chinese text could be used as a means to share the ideas of East Asian intellectuals. Those results were based on a steady collecting and analyzing of poetry and letters in Japan and overseas, and owed to some discovery of new materials.

研究分野：朝鮮近代史

キーワード：東アジア 人的ネットワーク 漢文 漢詩 近代 交流 交渉 思想

1. 研究開始当初の背景

「西洋の衝撃」以後、東アジア三国(日本、朝鮮、清)では、それぞれの危機意識の下、共通の教養であり、またコミュニケーション手段であった漢字、漢文を使って、知識人の間にかなり親密な人的ネットワークが形成されていたことが、近年の王宝平氏らの研究により明らかになっている。その人的ネットワークが、その後の東アジアのいわゆる近代国家の成立に大きな影響を及ぼしたことは確かではあるが、今日の東アジア国際秩序の変容期に関わる議論は、外交史料の分析を中心とし、政策・思想分野において盛んに行われ、共通の教養を基盤とした文化的側面への視野が不十分である。本研究は、三国の知識人たちによって構築された人的ネットワークの具体的様相と、それが実際、当時、及びその後の東アジアの国際関係にどのように影響を及ぼしたかについて明らかにするために、その初歩的段階として、基礎的な事実関係を把握することを目的として始められた。

上記のような問題意識は、研究組織を形成する三名にとっては、既に共通するものであった。崔は、崔 2013 で、朝・清間の外交交渉に政治家の人脈による「根回し」が大きな役割を果たしてきたことを指摘し、さらに崔 2016 では朝鮮の清に対する朝貢使節が、清の知識人達と互いに詩文を贈り、帰国後も書信による交流が続いた事実に注目し、国家間の外交関係を下支えするのは、それに関わる知識人達の「私的」交流(人的ネットワーク)ではないかと考えた。そのような人的ネットワークを可能にしたのは、共通の文字である漢字と、共通の教養である漢詩・漢文

いわゆる「同文・同種」と呼ばれる所以となった文化の共通基盤だったのである。北原は朝鮮近代政治史の立場から、近代日本における最初のアジア主義団体である興亜会において、日清朝三国の人々が一堂に会し、「漢詩・漢文」を通して交流した事実に注目しており、日本のアジア主義に関する考察や清国側からの視点に立脚した研究はあるが、朝鮮の観点に立った研究については着手されていないことを問題視していた。かねてより、いわゆる「満洲国」成立前後の日中の文化状況を主たる研究領域としていた平石は、日本が大陸に進出し、朝鮮や台湾などに植民地を形成する契機を作ったアジア主義を考える上で、日・中・韓の研究知見を総合することが不可欠であると感じていた。

東アジアの知識人たちは漢字を用い、漢詩・漢文によってネットワークを築いた、もしくは築こうとしたのである。これは従来文学研究の領域に属する関心とされ、政治・外交史の領域では追求されてこなかった問題である。しかし、三国の視点から「人的ネットワーク」を立体的に捉えようとしたとき、歴史、政治、文学といった個々の研究領域を超えた共同研究が今こそ必要であると考えた。

2. 研究の目的

上記のような背景のもとに、本研究の構成員である代表者崔蘭英、分担者平石淑子、北原スマ子の三名による各々の研究領域を超えた、東アジアという広い視点を持つ共同研究が計画された。申請の段階において目的として挙げたのは以下の三点である。

(1) 漢字・漢文でやりとりされた書簡や詩文を収集し、分析、検討することを通して、清国人、朝鮮人、日本人の間に成立していた人的ネットワークの様相を明らかにする。

(2) 三国間の人的ネットワークが政治、外交上、どのような影響力を持ったか、あるいは持ち得たかを検討する。

(3) 三国間に存在した人的ネットワークのその後の展開に注目し、東アジアにおける人的ネットワークの役割、意味について考察する。

本研究の最終目標は、19世紀後半、いわゆる「西洋の衝撃」を受けた後の東アジア三国(日本・清・朝鮮)がどのようにその衝撃を受け止め、対抗していこうとしたかを探るうとするところにある。それは即ち西洋を中心としてもたらされた「近代」という大問題に真正面から取り組むものであり、それはまたその後の植民地という大きな問題にたどり着くものであるが、本研究期間内にはそれに到達するまでの基本的な事実確認を中心に行っていくこととした。

3. 研究の方法

(1) 各年度の重点検討項目の設定

本研究の検討項目は東アジア三国に跨っており、それぞれの国に関する知識を持つ研究者による、学問領域横断的な共同研究である。資料の収集及び調査対象を絞り、研究代表者、分担者の各々の専攻範囲に基づき研究を進め、各々の成果を持ち寄り検討を重ねた。具体的には19世紀後半を中心に、燕行使をはじめ、清に赴いた朝鮮の人々が清の知識人と交換した詩文と書信、興亜会と朝鮮、清国人との関わり、日本で行われた日本人と朝鮮や清の人々の交流、の三点に注目し、そこから見えてくる三国の知識人の間に生まれた人的ネットワークに関する情報を収集し、データベース化に向けて準備を進めた。それらの成果は論文や学会発表において順次公開を行うこととした。

また、学問領域横断的な研究であるため、各自の関心がそれぞれの学問範囲に分散することを避け、研究を体系的、計画的に遂行し、本研究グループの特色を最大限に発揮することを狙って、上記の調査項目をそれぞれ個別年度の重点課題に設定することとした。

(2) 調査研究の方法

資料収集と考察

上記の各テーマに関して個別に、または共同で史料収集とその分析を行った。北京第一档案馆、北京国家図書館古籍館では、燕行使関連の文書・詩文・筆談記録を中心に、韓国国立中央図書館、韓国学研究院附属図書館蔵書閣、韓国ソウル大学附属図書館奎章閣では、朝鮮の知識人の日本視察関連の文書・詩文・筆談記録を中心に資料収集を行った。また日本国内では、研究グループメンバー各自、東洋文庫、東京大学附属図書館、国立国会図書館、早稲田大学図書館、大東文化大学図書館等において興亜会関連の資料、及び漢詩、漢文書信などを調査、収集した。新資料の発見も得られたが、これについては「4. 研究成果」で詳述する。

現地調査の実施

文献史料の記載を確認するための現地調査も併せて行った。主要な調査対象地は、日本国内では第二次修信使の宿泊地である東本願寺、詩文交換の主たる場となった紅葉館や延遼館跡、1881年に来日した「紳士遊覧団」の視察した官庁、工場などの跡地、清国駐日公使館の跡地など、韓国では王陵や魚允中の生家、甲申政変と壬午軍乱の跡地などである。また北京では董文渙の生家や朝鮮の朝貢使節の宿泊地、知識人たちが図書購入などで頻繁に出入りした瑠璃廠などを調査した。

共同研究会による資料検討の共有

構成員の進捗状況を確認し、情報を交換するため、年間6回の研究会を開いた。重点調査対象に関するプレゼンテーションと、それに続く討論を通して、個々の史資料の分析を共有するとともに、漢詩の交流によって築かれた「人的ネットワーク」に関する問題点を検討した。

(3) 公開研究会（講演会）とシンポジウムの開催

2回の公開研究会を開催

2018年3月に、日中文化交流研究の第一人者である、お茶の水女子大学元学長で二松学舎大学理事でもある佐藤保先生に、清国外交官の黄遵憲の日本での活動を中心に講演を御願ひした。また2019年3月、日本人漢詩人を中心に研究を進めておられる東京成徳大学教授の直井文子先生に、朝鮮弁理公使を務めた漢文学者竹添進一郎の漢文日記を主題として講演をしていただいた。両次ともに講演後にディスカッションを行い、研究上の留意点および問題点についても貴重な示唆をいただいた。これらの公開研究会によって新しい知見を開き、またさらに問題意識を深めることができた。

シンポジウムの開催

最終年度は、それまでの成果を外部にむけて発信することに努めるとともに、日本女子大学を会場に、「『西洋』の出現と東アジア知識人の人的ネットワーク」と題する最終シンポジウムを開

催した。本研究代表者、分担者のほか、二名の連携研究者、隣接分野の専門家を招いて計六名のパネリストによる報告、活発な討論が行われた。当日のプログラム、及び具体的な内容については以下の項目で述べる。

4. 研究成果

本研究期間中に論文 12 篇、学会発表 8 件、著書 2 冊の成果が得られた。

(1) 本研究で初めて利用される資料とのかかわりで

韓国蔵書閣所蔵の筆談資料『談草』

1881 年に「紳士遊覧団」の一員として訪日した魚允中は、長崎から清に赴き、天津で李鴻章と会談した。本資料は、その間、魚允中が清の黄遵憲などの公使館関係者および洋務派官僚との間で行った筆談の現存する一部である。そこからは、これまでに明らかにされなかった魚允中の清国行きが実現された経緯、及び清国駐日公使館館員を通して清・朝間の人的ネットワークがどのように形成されたのかについて、その一端を知ることができた。本資料に関しては、代表者の崔が 2019 年 3 月の朝鮮史研究会において報告している（『紳士遊覧団』メンバーの清国公使館を通して形成される人脈 魚允中の清国行きを例に ）」。

北京国家図書館所蔵『韓客詩存』、『韓客文集』など

本資料は、清末の政治家・文人である董文渙が朝鮮の朝貢使節から贈られた詩文を中心としており、董文渙の日記と合わせて朝鮮の人々と唱和した詩文を多数収録している。代表者の崔はこれを整理し、燕行使一行と清の知識人との交流の実態を検証した。その結果、燕行使と訳官たちは、董文渙およびその周辺の清の知識人と互いに詩文を贈り、帰国後も詩文や書信の往来による交流を続けていたことが明らかになった。この時の人脈は、それまでに清の知識人と朝鮮の人々の間に構築された「人脈」を継承したものであり、その「人脈」はまたその後清を訪れた燕行使に継承されていく。さらに 1880 年に訪日した朝鮮の訳官は、清と日本の知識人との交流にこの「人脈」を活かしていることが明らかである。まさに東アジア知識人のネットワーク形成の初期の様相を示していると言えよう（崔「清の知識人と燕行使の交流から見る人的ネットワークの構築 董文渙の日記および詩文を手掛かりに ）」。

『興亜会報告』(月刊) および『亜細亜協会報告』、『会余録』

興亜会の会報『興亜会報告』(月刊)と亜細亜協会の会報『亜細亜協会報告』は、現在復刻版で資料集『興亜会報告・亜細亜協会報告』(全 2 巻)が出版されているが、前述の通り、日本においては朝鮮史研究の分野でこの資料を活用した専論はない。代表者の崔と分担者の北原はこれと合わせて、会員の維持策として 1888 年より亜細亜協会から発行された機関誌『会余録』も使用して、興亜会、亜細亜協会と関わった清と朝鮮の人々について調査した。この調査は、これらの資料に掲載された漢詩文を利用し、興亜会の三国連帯論を朝鮮の人がどのように評価していたのかを考察するための前段階に当たる。近代黎明期の日中朝三国人が、近代日本における最初のアジア主義団体である興亜会、亜細亜協会を舞台に、漢詩・漢文を駆使していかなる人的ネットワークを築いていたのかという問題を実証的に検討することによって、朝鮮史研究の手薄な分野に貢献できたと考えている（崔・北原『『近代』移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究(一)興亜会と亜細亜協会を中心に・(二)興亜会・亜細亜協会中国人との詩文による交流を中心に」）。

早稲田大学図書館所蔵「宮島誠一郎関係文書」

本資料は膨大な量を誇っており、中には朝鮮の人々との筆談、書信も収録されているが、朝鮮史研究には全く使用されていない。代表者の崔と分担者の北原は、第二次修信使金弘集一行との筆談資料を整理し、日本・清・朝鮮の三国の知識人たちがはじめて一堂に会して親しく交流した様子を具体的に次の の概要と合わせて紹介した。また、こうした交流から生まれた人的ネットワークは共通の漢字文化を基に、筆談によって築かれたことも指摘した（崔・北原『『近代』移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究(三)第二次修信使金弘集一行の日本滞在を中心に ）」。

大東文化大学所蔵『韓人筆話』

本資料は高崎藩主の大河内輝声が記録、保存したものである。第二次修信使金弘集一行が訪日した際に日本・朝鮮・清の三国の知識人たちが交流して行った筆談と、それに関係する書信集である。代表者の崔が2019年10月に韓国朝鮮文化研究会にて報告し、分担者の北原と共同で「『近代』移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究(四)」として発表することとなった。この筆談についての分析から、かかわる東アジア知識人たちの交流は、日本 朝鮮、清国 朝鮮、日本 清国といった二国間の関係ではなく、日本 清国 朝鮮 日本...と三国の間で交差しており、外交文書類でよく知られた公的な場で単線的に構築されるのではなく、民間人を含め様々なルートが複雑に絡み合って立体的に形成された人的ネットワークの実態が実証された。

(2) 総合的な研究成果 シンポジウムの開催

(1)で述べたように、本研究は「漢字・漢文でやりとりされた書簡や詩文を収集し、分析することを通して、清国人、朝鮮人、日本人の間に成立していた人的ネットワークの様相を明らかにする」という当初の目標の一つに近づくことができた。また三国間の人的ネットワークが政治、外交上、どのような影響力を持ったか、あるいは持ち得たかを検討するために開催した2020年3月のシンポジウムでは、あらためて当時の共通語である漢字、共通の教養としての「漢詩・漢文」が東アジアの知識人の思想を共有する手段となり得たことを再確認したと同時に、そのことが歴史上果たした役割について有益な議論を展開することができた。

当日の報告者・題名は以下の通りである。

| 報告者 | 題名 |
|---------------|---|
| 月脚達彦(東京大学) | 1880年代における東アジアの人的ネットワークの形成の現実的基盤 |
| 北原スマ子(明治大学) | 興亜会と朝鮮知識人たちの人的ネットワークの形成 |
| 野田 仁(東京外国語大学) | ロシアの東アジアへのアプローチ(1880~90年代): 外交・軍事・文化 |
| 平石淑子(日本女子大学) | 明治の文人たちの交遊について 野口小蘋を中心に |
| 崔蘭英(常磐大学) | 清国公使館を中心に形成される「近代」東アジア知識人のネットワーク |
| 高光佳絵(千葉大学) | 戦間期における知識人のトランスナショナル・ネットワークと東アジア 阪谷芳郎を中心に |

月脚、北原、崔は、漢文筆談、漢詩などの媒体を通して、興亜会・亜細亜協会や清国公使館などの「場」で形成されるネットワークの実態を、資料に基づいてそれぞれ検証した。野田は視点を「西洋」側に移し、たとえばロシアがこのようなネットワーク形成をどう捉えていたのかを検証した。平石は、明治初期の日本における漢詩、漢文による人的ネットワークの実際について、文学や芸術の方面からの視点を加えて考察した。また高光は、20世紀を目前に三国間の外交関係が変化して行くという状況の中で、知識人たちの間に構築された、もしくはされつつあった人的ネットワークの行方、そして彼らが構想した「連帯」あるいは「非連帯(排他)」を20世紀東アジアの国際関係と関連させながら論じた。

(3) リストの作成、情報の整理 データベースの準備

興亜会・亜細亜協会関係資料に詩文を掲載した中国人と朝鮮人のリストについては、すでに論文中に発表している。このほかにも、東アジア知識人の人的ネットワークの様相を明らかにするために、以下のような情報に関して整理を進めている。

「朝鮮人訪日時開催懇親会参加者リスト」、「興亜会の会員になった朝鮮人」、「『晚清東遊日本匯編』に登場する女性詩人に関するデータ」、「近衛篤磨が朝鮮および清の人々と交わした書信の整理と人物に関するデータ」、「明治初期に訪日した朝鮮人の漢詩」、および「燕行使と清の知識人と唱和した漢詩」の整理と、関係する人物に関するデータ収集。これらのデータについては、今後さらに精査を加え、将来総合的なデータベースとして構築し、公開することを目指している。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計12件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 0件）

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 崔蘭英・北原スマ子 | 4. 巻 36-1 |
| 2. 論文標題 「近代」移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究（一） 興亜会と亜細亜協会を中心に | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『人間科学』常磐大学人間科学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 1～10頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 崔蘭英・北原スマ子 | 4. 巻 36-2 |
| 2. 論文標題 「近代」移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究（二） 興亜会・亜細亜協会と中国人との詩文による交流を中心に | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『人間科学』常磐大学人間科学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 15～38頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 59 |
| 2. 論文標題 油彩画「魯迅の遺容」をめぐって | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『史艸』 | 6. 最初と最後の頁 92～108頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 68 |
| 2. 論文標題 蕭紅・蕭軍往復書簡 北京 上海 翻訳と注釈 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『日本女子大学文学部紀要』 | 6. 最初と最後の頁 85～104頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 4 |
| 2. 論文標題 蕭軍・蕭紅と青島 生活と創作 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『中国東北文化研究の広場』 | 6. 最初と最後の頁 25～40頁 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 38 |
| 2. 論文標題 塞北の詩人、宋小濂 郷土への思い | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『お茶の水女子大学中国文学会報』 | 6. 最初と最後の頁 19～39頁 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 崔蘭英 | 4. 巻 17号 |
| 2. 論文標題 清の知識人と燕行使の交流から見る人的ネットワークの構築 ——董文煥の日記および詩文を手掛かりに | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『韓国朝鮮文化研究』 | 6. 最初と最後の頁 1～22頁 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 63期 |
| 2. 論文標題 “春水”随感 | 5. 発行年 2017年 |
| 3. 雑誌名 『愛心』 | 6. 最初と最後の頁 40～43頁 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 第一冊 |
| 2. 論文標題 謝冰心とタゴール～「春水」と“Stray Birds”～ | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『春水』手稿と日中の文学交流 | 6. 最初と最後の頁 77～93頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 該当する |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 67号 |
| 2. 論文標題 東京から一蕭紅書簡（下） 翻訳と注釈 | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 『日本女子大学文学部紀要』 | 6. 最初と最後の頁 55～75頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 平石淑子 | 4. 巻 第69号 |
| 2. 論文標題 「商市街」25号――蕭紅『商市街』抄訳 | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 『日本女子大学文学部紀要』 | 6. 最初と最後の頁 41～54頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

| | |
|--|----------------------|
| 1. 著者名 崔蘭英・北原スマ子 | 4. 巻 37-1 |
| 2. 論文標題 「近代」移行期の東アジア知識人の人的ネットワークについての基礎研究(三)―第二次修信使金弘集― 行の日本滞在を中心に― | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 『人間科学』常磐大学人間科学部紀要 | 6. 最初と最後の頁 31-44頁 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計8件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 3件）

| |
|---|
| 1. 発表者名 崔蘭英 |
| 2. 発表標題 「紳士遊覧団」メンバーの清国公使館を通して形成される人脈 魚允中の清国行きを例に |
| 3. 学会等名 朝鮮史研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 崔蘭英 |
| 2. 発表標題 清の知識人と燕行使の交流から見る人的ネットワークの構築 董文渙の日記および詩文を手掛かりに |
| 3. 学会等名 朝鮮学会第68回大会（国際学会） |
| 4. 発表年 2017年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平石淑子 |
| 2. 発表標題 謝冰心とタゴール 「春水」と“Stray Birds” |
| 3. 学会等名 第一回「東アジアの交流と文学」国際シンポジウム（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平石淑子 |
| 2. 発表標題 看明治・大正時期日本人の中国観-通過小杉放庵-（中国語） |
| 3. 学会等名 国際シンポジウム「コミュニケーションという視野の下の東アジア植民地主義研究」（中国・吉林大学）（国際学会） |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名 崔蘭英 |
| 2. 発表標題 「大河内文書」にある第二次修信使との筆談について |
| 3. 学会等名 韓国朝鮮文化研究会第20回大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 北原スマ子 |
| 2. 発表標題 興亜会と朝鮮知識人たちの人的ネットワークの形成 |
| 3. 学会等名 シンポジウム 「西洋」の出現と東アジア知識人の人的ネットワーク |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 平石淑子 |
| 2. 発表標題 明治の文人たちの交遊について |
| 3. 学会等名 シンポジウム 「西洋」の出現と東アジア知識人の人的ネットワーク |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 崔蘭英 |
| 2. 発表標題 清国公使館を中心に形成される「近代」東アジア知識人のネットワーク |
| 3. 学会等名 シンポジウム 「西洋」の出現と東アジア知識人の人的ネットワーク |
| 4. 発表年 2020年 |

〔図書〕 計2件

| | |
|-------------------------------------|------------------|
| 1. 著者名 中里見敬編著、平石淑子、中里見敬ほか | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 花書院 | 5. 総ページ数 255頁 |
| 3. 書名 『春水』手稿と日中の文学交流 周作人、謝冰心、濱一衛 | |

| | |
|--------------------------------|------------------|
| 1. 著者名 木之内誠・平石淑子 大久保明男・橋本雄一 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 大修館書店 | 5. 総ページ数 201頁 |
| 3. 書名 大連・旅順 歴史ガイドマップ | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

| |
|---|
| <p>シンポジウムの開催</p> <p>【主題】 「西洋」の出現と東アジア知識人の人的ネットワーク</p> <p>【日時】 2020年3月7日(土) 10時～16時50分</p> <p>【場所】 日本女子大学目白キャンパス 百年館高層棟5階302会議室</p> <p>プログラム</p> <p>午前の部 (10:00～12:30)</p> <p>月脚達彦(東京大学)</p> <p>1880年代における東アジアの人的ネットワークの形成の現実的基盤</p> <p>北原スマ子(明治大学)</p> <p>興亜会と朝鮮知識人たちの人的ネットワークの形成</p> <p>野田 仁(東京外国語大学)</p> <p>ロシアの東アジアへのアプローチ(1880～90年代): 外交・軍事・文化</p> <p>午後の部(13:30～16:00)</p> <p>平石淑子(日本女子大学)</p> <p>明治の文人たちの交遊について 野口小蘋を中心に</p> <p>崔蘭英(常磐大学)</p> <p>清国公使館を中心に形成される「近代」東アジア知識人のネットワーク</p> <p>高光佳絵(千葉大学)</p> <p>戦間期における知識人のトランスナショナル・ネットワークと東アジア 阪谷芳郎を中心に</p> <p>総合討論(16:00～16:50)</p> |
|---|

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------------------|---|-----------------------------------|----|
| 研究 分 担 者 | 北原 スマ子 (Kitahara Sumako) (60793552) | 日本女子大学・文学部・研究員 (32670) | |

6. 研究組織（つづき）

| | 氏名 (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-----------|--|--|----|
| 研究 分担者 | 平石 淑子 (Hiraishi Yoshiko) (90307132) | 日本女子大学・文学部・教授 (32670) | |
| 連携 研究者 | 月脚 達彦 (Tsukiashi Tatsuhiko) (70272614) | 東京大学・大学院総合文化研究科・教授 (12601) | |
| 連携 研究者 | 野田 仁 (Noda Jin) (00549420) | 東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授 (12603) | |